



中部ブロック

発行人：伴 信太郎
 事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
 名古屋大学大学院医学系研究科
 総合医学専攻総合診療医学分野 内
 Tel.052-744-2951 Fax. 052-744-2951
 E-mail:nobuban@med.nagoya-u.ac.jp
 HP:http://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/

ニュースレター No.17 (2017.03) 本号の編集担当者 伴 信太郎

●東海家庭医療ネットワーク活動報告

『第 28 回カンファレンス in 三重』を開催しました！

東海家庭医療ネットワークは、10 年ほど前から、家庭医療に興味のある、東海地方にゆかりの医療者、学生たちが集まり、年 3 回カンファレンスを行っています。平成 29 年 2 月 25 日、三重県津市の高茶屋診療所で通算 28 回目の学習会を開催しました。

1 題目、名張市立病院の谷崎隆太郎先生による、外来で出会う感染症の話。さまざまな Tips を教わりました。感染症診療においては細菌かウイルスか、という視点よりも抗菌薬が有効そうか否か、という観点を大切にしているというお話はなるほどと思いました。

2 題目、三重県立一志病院の洪英在先生と国立長寿医療研究センターの川嶋修司先生による、認知症終末期の話。摂食に問題のある認知症患者症例をもとに、それを終末期としてよいかの議論から、FAST による経過の評価、予後予測ツールを参考にした予後評価を行いながら、多職種と連携して診療を進める極意を教えてくださいました。

学習会でネットワークの輪を広げた後は、それを深めるための懇親会です。実はこれが最重要イベントの位置づけ。おいしい松坂牛の焼肉を堪能しながら、話は尽きることがなく、皆の絆はより強固なものとなったのでした・・・。

●石川県

【報告】能登地域総合診療強化研究会 平成 28 年度クリニカルラウンド (全 8 回)

第 6 回クリニカルラウンド テーマ『アルコール使用障害の行動変容』

講師 恵寿総合病院 伊達岡 要先生
 日時 平成 28 年 12 月 14 日(水)19:00~20:00
 場所 市立輪島病院 2 階会議室 参加者 28 名
 内容 症例検討、グループワーク

第 7 回クリニカルラウンド テーマ『心筋梗塞かもしれない』

講師 珠洲市総合病院 小泉 順二先生、中島 崇志先生
 日時 平成 29 年 1 月 30 日 (月) 19 時から 20 時
 場所 珠洲市総合病院 参加者 25 名
 内容 症例検討、グループワーク

第 8 回クリニカルラウンド テーマ『高齢者の関節炎』

講師 公立宇出津総合病院 金子 聖司先生
 日時 平成 29 年 2 月 22 日 (水) 19 時から 20 時
 場所 公立宇出津総合病院 参加者 21 名
 内容 症例検討、グループワーク

【今後の予定】 平成 29 年度も継続してクリニカルラウンドを実施する予定である。



●富山県

【報告】

1) 2016 年 12 月 4 日 富山県在宅医療研修会「在宅医療におけるリスク管理と多職種連携」

会場：富山医療福祉専門学校 講師：小浦友行 (富山大学医学部 富山プライマリ・ケア講座)

富山県のセラピスト向け在宅医療研修会。バイタルサイン観察のシミュレーショントレーニングと、急変時の対応についてのリハビリ専門職同士のグループディスカッションを行った。

2) 2016 年 12 月 18 日 とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム ポートフォリオ発表会

会場：富山大学附属病院 講師：今泉記念館 ゆきあかり診療所 高橋毅先生

ゆきあかり診療所高橋毅先生にお越しいただき、

地域志向型ケアのワークショップを行っていただいた。

富山県内だけでなく、新潟、石川、長野からの発表者を受け入れ、

近隣の病院・プログラム同士の交流を深める機会となった。

当プログラムとしては今回初めて、ポスターセッションによる発表形式を取り入れた。



【今後の予定】

1) 2017 年 6 月 3 日 (土) とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム ポートフォリオ発表会

会場：富山大学附属病院

●愛知県

【報告】 1) 2017年1月14日(土) 14:00-18:00 『ACCEL 2017 冬』 場所:名古屋大学医学部 3号館 第3会議室



ACCEL (Attractive Conference on Collaborative and Elaborative Learning for Senior Residents) は、名古屋大学総合診療科が主催する家庭医療専門医試験の受験申請に必要なポートフォリオ (PF) の作成を支援するためのミーティングです。年4回開催。

今回は雪が舞う中、22名にご参加いただきました。近藤 猛先生より「コミュニケーション」のコアレクチャーをしていただき、非常に参考になりました。

【今後の予定】

2017年3月18日(土) 14:00~18:00 名古屋大学医学部基礎棟第1会議室

以降の予定は、名古屋大学総合診療科 HP

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/index.html> もご参照ください。

すべての家庭医療専門医プログラムの専攻医、指導医のオープン参加を歓迎します。また PC 認定医の受験や更新、家庭医療専門医更新で PF 作成が必要な方も是非ご参加ください。詳細は下記アドレスにお気軽にご連絡ください。

連絡先:名古屋大学医学部附属病院総合診療科(担当:安藤友一)

E-mail: u1ando@med.nagoya-u.ac.jp

Tel & Fax: 052-744-2951



●静岡県

日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック静岡県支部地方会 第3回静岡プライマリ・ケアフォーラム報告

平成29年2月18日午後静岡駅パルシェにて、第3回静岡プライマリ・ケアフォーラム(平成28年度第2回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック静岡県支部地方会)が開催されました。

一般演題(ポートフォリオ)として以下の5つの演題が発表され、それぞれ活発な質疑応答、意見交換が行われた。以下抄録抜粋。

救急外来でけいれん発作を繰り返した無熱性けいれんの一例 (原田高根、牧信行 静岡県立総合病院救急科/ふじのくに家庭医後期研修プログラム)

けいれん発作は小児においては common symptom であり、Comprehensiveness (包括性) や Continuity (継続性) を理念とするプライマリ・ケア医にとっては避けては通れない問題である。今回、基礎疾患のない1歳1か月男児がけいれん発作を主訴に救急搬送され救急外来での初期対応中に短時間の全身性けいれんを2回繰り返したが、体温 36.5℃と無熱であり、病歴聴取りより胃腸炎関連けいれんと診断した。胃腸炎関連けいれんは、軽症のウイルス性胃腸炎に合併し無熱性けいれんとして発症する場合もあり、認知度はあまり高くないながらも比較的 common な病態と考えられる。また、通常の熱性けいれんへの対応と異なりベンゾジアゼピン系薬剤によるけいれん抑制効果に乏しく、短時間でけいれん発作を群発し特有の対応が求められることから、本事例を報告する意義があるものと考えた。

巡回診療対象地域在住の独居高齢者の生活と受療状況 (棚橋信子 静岡家庭医養成プログラム)

背景:日本における少子高齢化問題は深刻であるが、へき地ではより早い高齢化と医師不足も加わり医療面での対応が急がれる。

2015年5月、山間過疎地で無医地区に該当する三倉大久保辺地に対し森町家庭医療クリニックが巡回診療を開始した。

目的:巡回診療対象地域に在住する独居高齢者の生活状況、健康状態、不安や困り事、受診行動、互助の状況を知り、浮かび上がった問題点や課題から、求められる医療・介護について考察を深める。

方法:デザイン エスノグラフィーを用いた質的研究、セッティング 森町中心部から車で40分(約20km)の山間部に位置する巡回診療対象地域(大久保辺地)、対象者 同地区のリーダー、およびリーダーから紹介された5名の独居高齢者、データ収集 半構造化インタビュー、データ分析 イメージョン/クリスタライゼーション

結果:独居高齢者の生活を下支える個人の要因として、慢性疾患を抱えつつも、ほぼ自立した日常生活を送ることが可能な認知機能、身体機能、そして安定した精神面が保たれていることが挙げられた。外部の要因としては、交通アクセスの不良が生活面のみならず医療面の不利益を生じ、不安を生み出していた。また、遠方に住む家族による生活や医療機関受診の補助は不可欠であり、近年希薄化する近隣の互助が受診行動にも影響している可能性がみられた。医療に対する具体的な要求は言語化されなかったが、身体的な衰えについての不安は潜在していた。将来への漠然とした不安を持つも、将来の生活に対する具体的な希望を表すことはなく、現状を受け入れ周囲に任せる発言が多かった。

居住系施設での看取りをどう支えるのか～職員向けの学習会が効果的だった事例～ (水谷民奈 静岡健生会 浜松佐藤町診療所)

目的:自宅で最期を迎えたい人が多い一方で、実際に在宅で看取る患者数はまだまだ少ない。家族の介護力不足、本人家族の不安、医療サービスの不足などの問題があり、多死社会となるこれからは居住系施設でも看取りを求められる時代になる。しかし、施設職員は看取りに対して困難感を抱えているのも事実である。現在佐藤町診療所で訪問診療に関わっているサービス付き高齢者住宅で、90代女性の看取りの希望が患者家族から出されたが、現場の職員たちから不安の声が聞かれ、看取りについての学習会を開催することで不安が解消されるかを試みた。

方法:学習会前後に施設職員にアンケートを行い、不安な気持ちの変化について確認した。学習会は、聖隷三方原病院緩和ケア看護師の講演会の資料から引用して、スライドを作成して講義形式で行った。アンケートの項目は、講演会で示された「提供者が準備すべきケア項目」とした。

結果:アンケート回収数は学習会前16名、学習会後15名。ケア項目:「病状の認識」「死に近づく過程の症状の変化」「息を引き取った時の対応」「ケアの目標」「家族への声掛け」について、それぞれ学習会前よりも不安に思う職員が少なくなった。

在宅における皮下輸液の有用性—当院症例の検討 (三輪一太、杉浦正司、三輪誠 志太会 三輪医院)

在宅医療においても治療、補液目的で、点滴が必要になる。経静脈輸液は加齢に伴い末梢血管の確保が困難であったり、漏れたり、自己抜去されることも少なくない。在宅医療の対象者は超高齢だったり、認知症であるケースが多く、なおさらである。在宅医療では点滴のトラブルがあった場合その都度往診をしなければいけない。常に医療スタッフが付いているわけでもなく点滴をしたときの患者さん、家族の心理的負担も大きいと推測する。当院では身体的、心理的負担の少ない皮下輸液を以前より実践しているが、この度最近3年間19例の症例をまとめたところ、安全で、有用であったので報告する。また当院の皮下輸液の方法、コツなどを紹介する。

診断が困難であった不明熱の一例 (桜 莉唯心 1)、牧 信行 2) 1)静岡県立総合病院 放射線科(初期臨床研修医) 2)同 救急科)

【症例】74歳男性 【主訴】発熱【現病歴】2015/9/20頃より、全身倦怠感・腰痛・咽頭痛を自覚。

10月初旬より39度台の発熱を認め当院受診、ウイルス感染症として経過観察。2016年5~6月にかけ発熱と解熱を繰り返した。フェリチン・sIL-2R 高値・肝脾腫・二血球減少認め、悪性リンパ腫等を疑いPET/CT・骨髄生検を施行したが、異型細胞はなく経過観察。10月初旬~中旬に頭痛・発熱・悪寒・倦怠感を認め、10/17入院。【入院時現症】体温 39.8℃、脈拍 92回/分、血圧 128/76mmHg、結膜軽度黄染、咽頭発赤あり、頸部リンパ節腫脹・圧痛なし、項部硬直なし、心音正常、呼吸音清、腹部平坦・軟・自発痛・圧痛なし、CVA 叩打痛なし、四肢浮腫なし、末梢冷感なし、関節腫脹・圧痛なし、皮疹なし【入院時検査所見】WBC 5,800/μL(好中球 79.0%)、Hb 12.3 g/dL、Plt 7.6 万/μL、LD 365U/L、CRP 4.89mg/dL、フェリチン 1167ng/mL【入院後経過】各種培養検査・ウイルス抗体・自己抗体はいずれも陰性であった。成人 Still 病の診断基準を満たし、10/26よりPSL15mg/日開始。11/9よりMTX 6mg/週追加。症状や検査結果の改善に乏しく、12/8よりトシリズマブ 162mg 投与。12月中旬より胸腹水を認め、2017年1月中旬より意識障害出現し、1/29に死亡された。【考察】診断が困難であった不明熱の一例を経験した。残念ながら不幸な転機となったが、脾腫・二血球減少・フェリチン高値等の手がかりから考えられた鑑別疾患の幾つかについて、考察を加えて報告する。

小児救急、山間過疎地の独居高齢者の生活、施設での看取り、在宅医療、不明熱とどれも当学会ならではの演題で、特に最後の不明熱の演題では次の演者の鈴木富雄先生からコメントをいただき特別講演につながるようになった。

特別講演として大阪医科大学 地域総合医療科学寄附講座特任教授 鈴木富雄先生 より「13 カ条の原則で不明熱に絶対強くなる」と「大阪医科大学総合診療科の目指すところ」の2つのお話をいただいた。



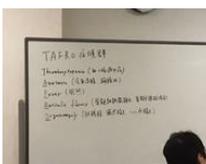
「13 カ条の原則で不明熱に絶対強くなる」では、13 カ条の原則：

- ①詳細な病歴を取り直せ、②何度でも身体診察をくり返せ、③前医からの抗菌薬をすべて中止せよ、④血培を 2 セットから 3 セット以上採取せよ、⑤まずはひとまず熱型観察、⑥解熱薬としての NSAIDs は可能な限り使用するな、⑦チンチンチンと勝利の鐘の音（フェリチン、赤沈、尿沈査）、⑧T スポット、TB（クオンティフェロン）も忘れずに、⑨腫瘍除外の造影 CT、⑩困ったときのガリウムシンチ（PET スキャン）、⑪これと思えば逃さず生検、⑫最終的には主治医が総合的に判断すべき、⑬医療者の焦りが病態を複雑にする、急がば回れとはこのときのためにあることを知るべし について、具体的な症例を交えて解説いただいた。稀のようでそうでもない家族性地中海熱や最近のトピックである TAFRO 症候群の解説などもいただいた。



「大阪医科大学総合診療科の目指すところ」では自身の医師としての経歴を振り返り、舞鶴市民病院では病院に泊まり込みの生活の中、大リーガー医等の指導のもと、良い後輩にも恵まれたこと。名古屋大学では OSCE、PBL、臨床研修必修化など医学教育の新たな流れにのれたこと。現在の大阪医科大学ではまず医学生が私立医大の特性もあってか助けてくれたこと、寄附講座として兵庫県や高知県などの地域医療、多職種連携にも貢献したいなどの将来のビジョンを語っていただいた。

最後に 20 分ほど地方会会員総会、会員交流会を行い、福地康紀先生より静岡県医師会の「在宅医療・介護連携情報システム運営事業」についての紹介があり、意見交換を行った。37名の参加者（医師 24名、初期研修医 3名、薬剤師 6名、看護師 1名、事務 2名、学生 1名）で会場は一杯になり、二次会も 16名の参加者に鈴木先生も加わり楽しい会となりました。この場をお借りして、口演いただいた先生方、支部会役員、当院スタッフ、参加者の皆様感謝いたします。



各地の話題

<西部地区>

第 8 回家庭医療学学生・研修医ワークショップ in 浜松

主催：静岡家庭医養成プログラム・浜松医科大学地域家庭医療学講座 日時：平成 28 年 12 月 10 日（土） 13:00~ 場所：クリエート浜松

内容： ワールドカフェ：これが今をときめく家庭医だ！ 患者中心の医療の方法 WS 演説~私にとって忘れられない人~ 他

磐田 A L S O プロバイダーコース

主催：静岡家庭医養成プログラム 共催：浜松医科大学地域家庭医療学講座 日時：平成 29 年 2 月 18、19 日 場所：磐田市立総合病院

<中部地域>

第 12 回 慢性期医療を考える会

日時：2017 年 2 月 15 日(水) 19:00~ 場所：もくせい会館(静岡市葵区)

一般演題 地域包括ケアシステムにおける管理栄養士の役割

演者：静岡県栄養士会栄養ケア・ステーション部長 久保田美保子先生

特別講演 認知症高齢者の食支援

演者：大阪大学歯学部大学院歯学研究科顎口腔機能治療学 野原幹司先生

内容：「高齢者と食」をテーマに、在宅高齢者の栄養支援のために栄養士の相談につながる方法、また認知症については類型別に病態に即した食支援のあり方を評価・検討する重要性についてご講演いただいた。

<お知らせ>：静岡県支部は基本的にメールでの広報になっております。静岡県支部からメールが届かない方は、学会事務局までメール登録をお願いします。



●岐阜県

【報告】1) 2017 年 1 月 20 日(金) 19:00~21:30 会場：岐阜会館 第 35 回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス

岐阜市近郊の臨床研修病院 8 病院から研修医 35 名と指導医 32 名の計 67 名が参加し、研修医による症例プレゼンテーションと研修医ディスカッションによる 2 つの症例検討と、研修医向けに以下の 2 つの講演を行いました。

症例ディスカッション：2 題

ミニレクチャー：総合大雄会病院放射線科 部長 鹿島正隆先生「IVR：肺、腎、副腎、骨腫瘍に対するラジオ波焼却療法」

特別講演：岐阜大学医学部循環器内科 臨床講師 久保田知希先生「動悸を主訴とする患者の診断の進め方」

【今後の予定】

1) 2017 年 6 月 3 日(土) 14:00~16:00 会場：岐阜大学サテライトキャンパス 岐阜県総合診療専門研修プログラム合同説明会

2) 2017 年 6 月 16 日(金) 19:00~21:30 会場：岐阜グランドホテル 第 36 回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス

●三重県

【報告】1) 総診オープンカンファ in 鈴鹿中央総合病院 会場：鈴鹿中央総合病院 会議室
 2017年2月9日(木)、鈴鹿中央総合病院で第4回総診オープンカンファを開催しました。
 過去3回はドクオーG的な診断推論が中心であったが、今回は総合診療医・家庭医の
 専門性の一つである、「BPSアプローチ」をテーマにしたカンファレンスを開催した。
 当日は、三重県厚生連の研修医や指導医の先生方を中心に多くの方が参加して下さい
 ました。次回は、2017年6月に市立伊勢総合病院で開催予定です。



2) リサーチプロポーザル発表会

日時：2016年12月4日(日) 9:30~15:00 会場：伊勢市観光文化会館

3) Trevino 先生セミナー (会場：三重大学 総合診療科・家庭医学医局)

講師：Trevino Aristarkus Pakasi 先生 (インドネシア大学地域医療学講座)

- ・第4回「高齢者ケアと地域の活性化 Elderly care and community empowerment」
- ・第5回「熱帯医療と感染症 Tropical health and infectious disease」

日時：2016年12月4日(日) (リサーチプロポーザル中に開催)
 日時：2016年12月7日(水)18:00~19:30

4) 家族システム/心理社会医学フェロシップ セミナー (会場：三重大学 総合診療科・家庭医学医局)

- ・第7回「家族介護の心のケア」山田 宇以先生 (聖路加国際病院心療内科)
- ・第8回「危機介入」 鈴木 美砂子先生 (岐阜県総合医療センター)
- ・第9回「家族療法のリサーチ」若林 英樹先生 (三重大学地域医療学講座)

日時：2016年12月8日(木)18:30~20:00
 日時：2017年2月9日(木)18:30~20:00

5) 三重・家庭医学セミナー(会場：三重大学 総合診療科・家庭医学医局)

- ・第28回「若手医師運動を通じた家庭医の国際的なリーダーシップ、パートナーシップそしてチームワーク他」吉田 伸先生 (穎田病院) 日時：2016年12月9日(金) 18:00~19:30
- ・第29回「様々な人の考えの中から主題を見出す：主題分析法のキホン」講師：西城 卓也先生 (岐阜大学医学教育開発研究センター) 日時：2016年12月12日(月) 17:30~19:00

6) 感染症講義シリーズ (会場：三重大学総合診療科・家庭医学医局) 講師：谷崎 隆太郎先生 (名張市立病院医師、三重大学名張地域医療学講座)

- ・第8回「急性腸炎～腸炎という診断を鵜呑みにしてはいけない理由～」
- ・第9回「病院内での発熱～熱源は感染症か非感染症か?～」
- ・第10回「カテーテル関連血流感染症～ヤツらはすでに血流に乗っている!～」
- ・第11回「細菌性髄膜炎～外してはいけない内科的緊 急疾患～」

日時：2016年12月13日(火)18:30~19:30
 日時：2016年12月27日(火) 18:30~19:30
 日時：2017年1月5日(火) 18:30~19:30
 日時：2017年2月16日(木) 18:30~19:30

7) 在宅・緩和医療フェロシップセミナー (会場：三重大学総合診療科家庭医学医局)

- ・第2回「非がん患者の終末期」講師：平原 佐斗司 先生 (オレンジほっとクリニック)
- ・第3回「在宅医療の実際」 講師：市橋 亮一 先生 (総合在宅医療クリニック)

日時：2017年1月25日(水)17:30~19:00
 日時：2017年2月28日(火)18:30~20:00

【今後の予定】

1) 感染症講義シリーズ (会場：三重大学総合診療科・家庭医学医局)

- 第13回「皮膚・軟部組織感染症～軽症から重症まで、解剖がすべて!～」

日時：2017年3月2日(木) 18:30~19:30

2) 第2回 プライマリ・ケアエキスパートナース研修会 (会場：県立一志病院)

講演「訪問看護師から見た退院支援 ～病棟看護師に期待すること～」

講師：市井淑子先生 (三重県看護協会訪問看護ステーション「なでして亀山」) 他 シンポジウム

日時：2017年3月4日(土)13:00~16:00

3) 三重家庭医療プロジェクトカンファレンス、メンタリングセミナー (会場：三重大学医学部外来棟) 日時：2017年3月5日(土)9:00~17:00

4) 家族システム/心理社会医学フェロシップ セミナー (家庭医学医局)

- 第10回「1年のまとめと発表会」 講師：鈴木 美砂子先生 (岐阜県総合医療センター)、若林 英樹先生 (三重大学地域医療学講座)

日時：2017年3月9日(木)18:30~20:00

5) 在宅・緩和医療フェロシップセミナー (会場：三重大学総合診療科家庭医学医局)

- 第4回「在宅医療における急変対応～感染症を疑う状態の方への対応～」 講師：高山 義浩先生 (沖縄県立中部病院)

日時：2017年3月10日(金)17:30~19:00

6) スキルアップセミナー 熟考!「地域包括ケア」(会場：名張市介護老人保健施設ゆりの里 多目的ホール) 日時：2017年3月15日(水)18:30~19:45

講演「訪問看護師から見た退院支援 ～病棟看護師に期待すること～」 講師：堀田聡子先生 (国際医療福祉大学)

<支部運営についての情報>

- ・各県の代表窓口は下記の方々です
 三重県；竹村洋典、富山県；山城清二、石川県；吉岡哲也、岐阜県；森田浩之、愛知県；伴信太郎、
 福井県；林寛之、静岡県；北西史直
- ・プログラム責任者の会中部ブロック代表；大杉泰弘 (藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラム)
- ・中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください。
 木村 悦子 (中部ブロック支部事務局) e-kimura@med.nagoya-u.ac.jp